

放送局

TBSラジオ	(TBS)	954kHz	(日) 7:40-7:55
北海道放送	(HBC)	1287kHz	(日) 7:45-8:00
東北放送	(TBC)	1260kHz	(日) 9:05-9:20
新潟放送	(BSN)	1116kHz	(日) 7:00-7:15
中部日本放送	(CBC)	1053kHz	(日) 7:40-7:55
毎日放送	(MBS)	1179kHz	(日) 6:15-6:30
中国放送	(RCC)	1350kHz	(日) 8:40-8:55
山陰放送	(BSS)	900kHz	(日) 7:30-7:45
RKB毎日放送	(RKB)	1278kHz	(日) 7:25-7:40
宮崎放送	(MRT)	936kHz	(日) 7:45-8:00
琉球放送	(RBC)	738kHz	(日) 7:00-7:15

※以上の11局ネットで放送しています。

長寿・子育て・障害者基金では、女優の中村メイコさんと作家の神津カンナさん親子の明るいトークで、高齢者・障害者の在宅福祉や生きがい・健康づくり、子育て支援、青少年の非行防止や健全育成、障害者スポーツなどをテーマにラジオ番組「メイコのいきいきモーニング」をお送りしています。

このコーナーは番組の放送内容からピックアップして誌上で再構成したものです。



TBSラジオ「メイコのいきいきモーニング」収録スタジオのメイコさん(左)とカンナさんです。

再録 **メイコのいきいきモーニング**

「アレルギーの子を持つママたちの交流」

平成20年10月19日放送
(第889回)

特定非営利活動法人みれっと(埼玉県さいたま市)は「こどものアレルギーから食と環境を考える」をキーワードに活動するアレルギーの子を持つ親たちの会です。

みれっとでは、ママたちに情報交換と交流の場を提供しようと、毎週第3水曜日におひさまカフェを開いています。

番組ではこのおひさまカフェとみれっとの活動から、アレルギーの子を持つ母親たちへの支援の必要性をレポートしました。

メイコ 何と日本人の三人に一人が何らかのアレルギー症状を持っているんですってね。これはもう国民病ですよ。

カンナ そうですね。喘息の子供もこ

の十年間で倍に増えているそうですし、食物アレルギーも乳児の1割、小学校ではクラスに一人の割合。ちょうど離乳食を食べ始める頃に発症するケースが多くて、最悪の場合、アナフィラキシーショックで死に至るケースもあって、アレルギーは決して軽々しく考えてはいけない病気なんですね。

メイコ 本当にお母さんは大変だと思えます。そんなときに同じような子供を抱える先輩ママからちよつとしたアドバイスをもらえたら、随分気持ちも楽になるのではないのでしょうか。

カンナ おひさまカフェでは毎回、アレルギーの子供も食べられるケーキやゼリーなどをスタッフが手作りして出しています。子供の食物アレルギーのために外食はやめているというママは、ここが唯一リラククスできる場所だと思います。

ママ 外で食べられる場所で、唯一私

がリラククスできるところなので楽しみにしています。1か月に1度ここでストレスを発散して後は頑張るぞつて。

メイコ みれっとの代表理事、久間佳代子よこさんはおひさまカフェの狙いをことうおっしゃいます。

久間 子供たちも連れてきてアレルギーの子でも安心していられる「危ない食べ物が無い喫茶店」が自分たちのときにあつたらよかつたねということもあつたので、じゃあ私たちがやってあげようということになったんですね。

今インターネットでアレルギーのママのコミュニティがいっぱいあるんですが、会って話すという安心感はいっぱい違うところと相談しているのとやっぱり違うんですよ。「無駄なお金を出さずに乗り切る方法をアドバイスできる人たちがたくさんいますよ」という場です。

ママ



おひさまカフェ

カンナ みれつとが誕生したのは13年前。当時はアトピー性皮膚炎や食物アレルギーの子は少なく、情報も対策もない中、手探りの子育てだったそうです。そこで同じようなママたちが集まってアレルギーについて勉強しようというのが活動の始まりでした。おひさまカフェの運営に参加する先輩ママ、金子さんと園原さんは当時のことをこう振り返っています。

金子 初めての子なので不安だらけのところアトピーがあつて自分の思いどおりにならないわけじゃないですが。そして薬には疑問を持つし、お医者

さんには不信感を抱くしでがんじがらめになつていたときに、こういうサークルで同じような立場のお母さんに会え、みんな同じような悩みを抱えていて、喋るだけでも開放されました。

園原 初めて来たときは子供はかなりのひどかったんですが、もう治つたような気になつちゃうくらいに「もう大丈夫」って思つて帰っていくことができました。幼稚園の中ではできないクリスマス会も、ここでは子供は自由に同じものが食べられて悲しい思いをしなくてもすみます。

メイコ 会員になつて二年目のママさんは、自分が手作りしたケーキでお子さんがアナフィラキシーショックになり、アレルギーのことをきちんと学びたいと、みれつとを訪れたそうです。

ママ すごくショックで、どうしたら子供を死なせずに育ててあげられるか、それには何がダメなのかをちゃんと勉強しないといけないと思つたら、まずはお母さんの話を聞きたいなと思つたんですね。ここに来たら食べ物のことをみんな分かっているので半年くらいでずいぶん変わってきました。

メイコ 私も一度本当に恐かつたわ。孫の一人が魚卵アレルギーで、ししゃもをうっかりあげちゃつて。食べ物の

栄養素も環境も昔とは随分違つてきていると言われています。「食物アレルギー?これくらい食べても平気よ、食べないと栄養つかないわよ!」なんてことは言つてはいけないんですね。久間さんは、アレルギーの人がいるということを前提とした社会になつてほしいと、このようにお話くださいました。

久間 これも一つのノーマライゼーションですよ。例えばアレルギーもほんのちよつと助けてくれるところがあれば何も問題なく生きていける人たちなんですよね。だからまず存在を認識してもらつたところと、子育てサポートはいつでもできてきたんですけれど、ある病気のある状況についてすぐ知りたいお母さんの情報がそこに用意されているかという、そうではないですよ。最初からアレルギーの人もいるんだということを頭に入れて、

いろんなことが計画されるようになるといいんじゃないかなと思います。

カンナ みれつとでは平成18年度にWAM基金の助成を受けて、埼玉県内11か所でママたちの交流会を開催しました。

それをきっかけにママたちが自主グループを作り、定期的に集まつて活動しているところも出てきているそうです。これからはやはり、各地の団体がネットワークをして、情報交換や交流をすること、それから情報を共有することも大切なことだと思います。

アレルギーっ子の子育てネットワーク・サポーター事業

特定非営利活動法人みれつとは、平成18年度、子育て支援基金「地方分」助成事業テーマ①「地域や家庭における子育て支援事業に関すること」の助成を受けて、「交流情報交換会」を11か所で行いました。開

催後、5つの自主グループが生まれました。事業の総括として行ったフォーラムでは、患児の家族・行政・市民団体それぞれの役割や今後の協力と支援の重要性を確認しました。

DATA

特定非営利活動法人みれつと

〒330-0834

埼玉県さいたま市大宮区天沼町1-302-2

FAX専用 048-642-0608

<http://www.npo-millet.com/>